木彫による造形研究　2014
クロッキー＆ドローイング

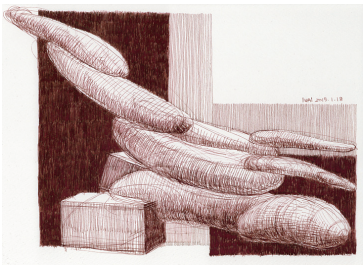
岩井　義尚　*Yoshinao Iwai*
（美術学部）

作品の形の素は、「自然のモノをデッサンしていると、その源は球体、それも機械的な球体ではなく、心地良い球体の単体又は複合体である」と考える。私の創作は、この考えを基に「視覚に訴えかけるのに重要である水平要素・垂直要素そのものが創り出す空間」を使い構成している。

第37回 中部二元会展 2015.3.17～3.22
愛知県美術館ギャラリー8F G1.G2.H.I 室（名古屋市）

テーマ；「動き」「流れ」「生」

作品における一つの方向は、テーマからイメージし、形の根源を動物（人も含む）・植物・自然現象から創作要素を探り、構成を考慮し、素材（木）を彫ることにより形（Form）を創り出す手法で具現化した立体とレリーフ、もう一つの方向は、塊の木の持つ存在感・力強さ・素材感を活かし形を彫り出して表現した立体がある。
平面作品は、ペンで描く多くのフリーハンドの線の重ねにより、人物の構成し、立体作品に影響するエスキースの要素を含むドローイングと人体クロッキー（各種描画素材）による表現の研究をする。

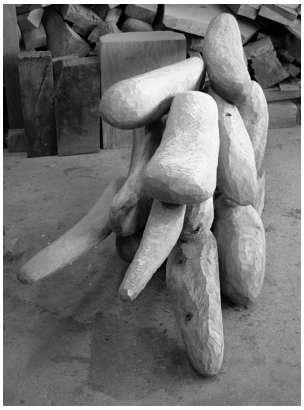


ペン（万年筆）によるドローイング

Form 1501　欅（ケヤキ）　H90×W240×D75

材料を見てから考え出したドローイングを元に、一塊の原木（切断された）から、ひとつ又はふたつの流線形を削り出し、それを集合させる事により「群」を意識し、流れを表現した。

大学校内（東キャンパス）に植樹されていた木を西キャンパスへ移植した時に立ち枯れ伐採された欅材中心に使用。



Form 1502
欅（ケヤキ） H45 ×W116×D58

過去のアイディアスケッチから、一本の枝分かれした欅の丸太を見ながらアイディアを練り直し描いたドローイングを元に、横たわる人体（女性の体）内側を小さな或は変形したボリュームが集まって見える形を掘り出すことにより、女性の「複雑な内面」を表現した。

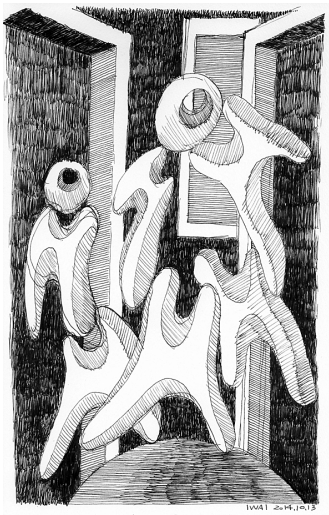
Form 1403
朴＋桜　H24×W32×D3

16年前に研修で英国に行った時に描いたアイディアスケッチを元に、ふたつのパーツに分け、朴の板を削り出したレリーフ状のものを、長方形の桜の板に組み立て、足を組んで優雅に横たわる女性を表現した。

Form 1404
アメリカンブラックウォールナット＋タモ＋水目桜
H53×W31×D30

或る時に見たテレビのダンスシーンより描いたドローイングを元に制作した「Form 1404」は、アメリカンブラックウォールナットとタモの3cm厚の板材より削り出したパーツを、ベースに水目桜材の丸味のある塊の上に組み立て、「躍動」を表現した。

KATATI シリーズは、ドローイングした時に出てくる形を、小さな板から削り出してパーツを作り、組めるようにしたオブジェである。

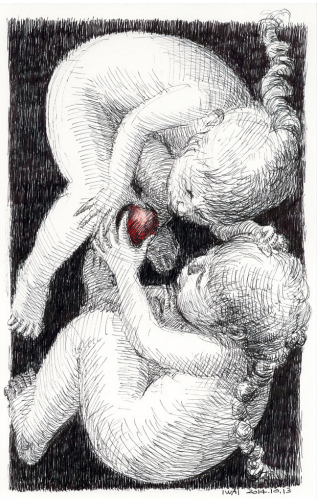


Form 1402-2
樟＋栓＋アメリカンブラックウォールナット　H31×W52×D32

樟の板の端材を利用し削り出したふたつのパーツを、アメリカンブラックウォールナット材の円盤状の上に、栓の木で作った足で繋げ、小品であるが「大地」を表現した。

ドローイング　想像による２～３人の子供の形を借り、「遊」シリーズの躍動する動きを、水彩紙にペン（万年筆）＆インクで描いてある。

「Art of 20歩」の作品展及び「ちゅうしんアートギャラリー」に展示



ドローイング
想像による２～３人の子供の形を借り、「遊」シリーズの躍動する動きを、水彩紙にペン(万年筆) ＆インクで描いてある。

クロッキー
現在所属している中部二元会の研究会での成果で、色画用紙・上質紙に筆ペンや鉛筆で描いている。
同会の研究展に出品（東桜会館）